



# 第18回運営推進会議

看護小規模多機能型居宅介護事業所るぴなす

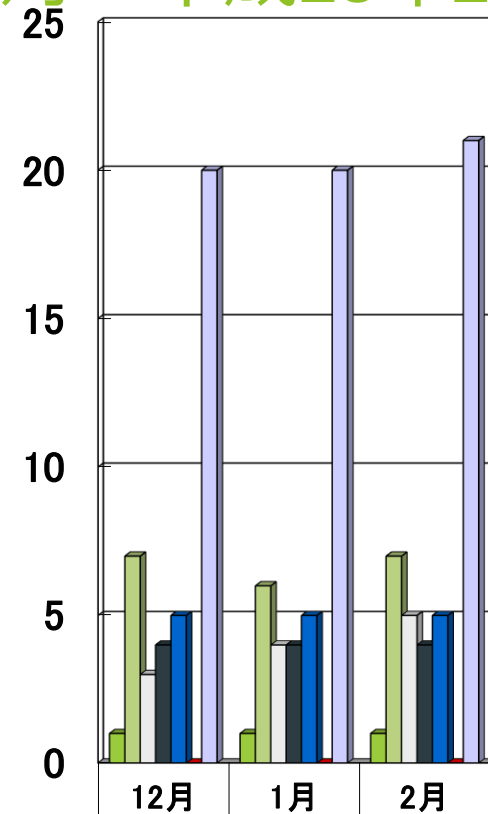
平成28年1月28日

# 第18回運営推進会議

- るぴなすご利用者現況報告
- 新規ご利用者紹介
- 活動報告
- 外部評価（事業所評価報告及び  
外部評価意見交換）
- その他質疑応答・要望等

# 登録利用者数

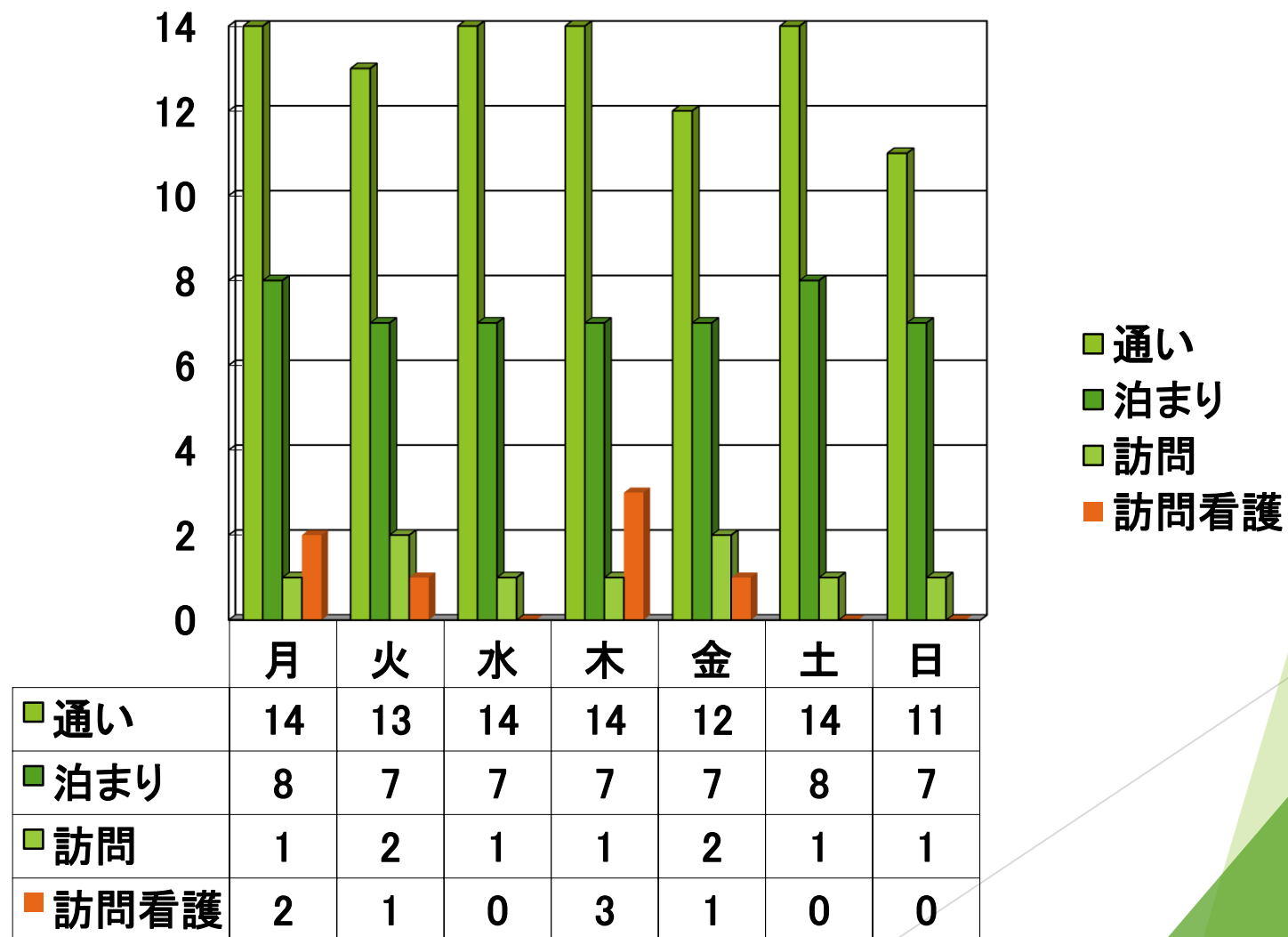
平成27年12月～平成28年2月



|      |    |    |    |
|------|----|----|----|
| 要介護1 | 1  | 1  | 1  |
| 要介護2 | 7  | 6  | 7  |
| 要介護3 | 3  | 4  | 5  |
| 要介護4 | 4  | 4  | 4  |
| 要介護5 | 5  | 5  | 5  |
| 申請中  | 0  | 0  | 0  |
| 合計   | 20 | 20 | 21 |

- 要介護1
- 要介護2
- 要介護3
- 要介護4
- 要介護5
- 申請中
- 合計

# 平成28年1月 曜日別利用者数



## ～活動報告～

12月      家族交流会  
桜ヶ丘小学校3年生来所  
クリスマス会

1月      福引大会

# サービス評価

# サービス評価

看護小規模多機能型居宅介護事業所は、運営推進会議をおおむね2月に1回以上開催することとされているがサービスの改善および質の向上を目的として、自ら提供するサービスについて評価・点検（自己評価）を行うとともに、自己評価結果について、運営推進会議等において第三者の観点からサービスの評価（外部評価）を1年に1回以上行う。

サービスの質の評価の客観性を高め、サービスに質の改善を図ることを目的とし、結果の公表を行うことが義務付けられおり、利用者に対するサービスの提供にあたり、職員に対し、十分意識付けを図ることが求められている。

# サービス評価

スタッフ個別評価



事業所自己評価



外部評価



評価の公表

- これまでの取り組みやかかわりを自らに向き合い、振り返ります。個人作業

- 各自が取り組んだ「スタッフ個別評価」を持ち寄り、全体で話し合い、それぞれの考えや実践、項目に関する捉え方の違いなどを話し合い、その中から改善の方策を考えます。事業所のコミュニケーションの場ともなります。

- 運営推進会議で話し合います。  
「できている」「できていない」という結果のみで判断するだけでなく、事業所が真摯に自らの取り組みを振り返り、質の向上を図っているか確認します。  
地域が日頃感じていることと事業者自身考えることとの違いについて話しあい、事業所の課題や今後の方向を見出します。

# サービス評価のポイント

- ◆スタッフ全員が自らを振り返り、自己評価を行うこと（スタッフ個別評価）
- ◆スタッフ個別評価とともに、事業所全体で振り返り、話し合い、共有すること（事業所自己評価）
- ◆運営推進会議で、事業所自己評価の結果を報告し、かつ、地域からの意見を頂き、運営に反映させること
- ◆自己評価及び運営推進会議による評価を毎年繰り返しながら、質の向上を図っていくこと
  - ⇒ 評価をスタッフ全員で行い話し合うことでチーム作りになり、提供しているサービスの確認になる
  - ⇒ 地域の方々より事業所に対する理解が促進される
  - ⇒ 外部評価を行う運営推進会議に行政や地域包括支援センターが参加することで、理解が促進される

# 今後の予定

2月      ・ 節分

3月      ・ ひな祭り

# 第18回運営推進会議 議事録

開催日時：平成28年1月28日(木) 18:00～19:30

出席者：斎藤先生，看護小規模管理者・小林，総務・物江，地域包括センター・小石様  
民生委員・大嶋様

ご利用者・吉田様

ご利用者ご家族・吉田様，小林様

## 1 斎藤先生より

来年度から、将来小規模多機能が地域の見守りの拠点となるようにと、国の方針も変わってきている。地域包括ケアで24時間見守りができる、重要な役割となることが期待されている。今日は高齢者等を見守る地域包括ケアシステムについて勉強します。

## 2 現況報告

- ・現在登録20名、2月より21名
- ・通い11～14名，泊り7～8名，訪問1～2名、訪問看護1～3名
- ・訪問看護は主治医から指示書の出ている方が利用。延べ人数。週1～2回。

### 3 活動報告

- ▶ ○行事、日頃の様子をパワーポイントで写真を見て頂きながら報告する。
- ▶ ・運営推進会議と家族交流会を一緒に行った。
- ▶ ・クリスマス会、サンタからのプレゼント、手作りケーキ
- ▶ ・桜ヶ丘小学校3年生が交流に来て下さった。3クラスのうちの1クラス30名がデイと看護
- ▶ 小規模15名ずつに分かれ、引率の先生は1名で子ども達が主体となって動いて、歌詞を貼
- ▶ って歌を歌って下さった。素直な子ども達だったのが印象的だった。折り紙で作った手紙
- ▶ を皆さんに手渡して下さった。翌日にも数人の子が代表し、全員で書いたメッセージを模
- ▶ 造紙に貼って持って来て下さった。子どもとの交流は、地域の見守りにもつながり良い事
- ▶ だと思いました。
- ▶ ・新年の御神酒で乾杯。新たに日めくりカレンダーが始まる。
- ▶ ・福引大会の様子
- ▶ ・日頃の様子から、牛乳パック積み上げゲーム、ボール投げゲーム。普段座っている方が立
- ▶ ち上がる、手を伸ばす、背伸びをするなど、生活の中でリハビリができています。
- ▶ ・新年会と送別会を、ご利用者様職員みなで行った。退職する職員が挨拶し、ご利用者様
- ▶ からも言葉をかけて頂いた。

#### 4 地域包括ケアシステム、小規模多機能について、斎藤先生より

- ・小規模多機能，看護小規模多機能の概念、背景  
特養の機能を地域へ→サポートセンター拠点(小山さん)，小規模で家庭的な宅老所(川原さん)，特養の入所者が畑付きの一軒家で農作業をした逆デイ(宮島さん)
- ・高齢者は2025年までに急激に増え続け、その後なだらかに。高齢者のケアニーズ，単身世帯、老夫婦世帯、認知症を有する人が増加する。医療における治療、ケア、療養の分断⇒地域包括ケアの考え平成24年に施行。
- ・施設中心から住み慣れた生活の場での生活へ。小規模多機能は施設でなく事業所。見守りの拠点。住み慣れた地域で。施設で全てでなく、家と事業所を行ったり来たり。
- ・看護小規模多機能は医療依存度の高い方も、家と事業所で受ける、がん末期、看取り期、病状不安定期、病院から地域へ、地域でそういう人を見守ろうというシステムへ。

#### 5 サービス評価

- ・評価項目、事業所評価を順に説明し、質問や意見を募る。
- ・読んでもわからない事が多いとの意見が多かった。

##### 項目

<1・2>できていると思うので遠慮せずに『よくできている』で良いのではないかと。

<3・4>人材育成に関しては外部からどうこう言うものでないので、内部でやって頂ければ良いと思う。

<6> 要望があっても、できるものとできないものとあると思うが、良くできていると思う。  
→内容がわからない職員が多い為『全くできていない』という評価になっている。  
書面だけでは分かり難いのもっと内容について職員に伝えたい。

- <8> うちのように変わりのない場合は良いが、相談や要望はしっかり聞いているのか  
→送迎時や電話で、相談や要望を聞いている。何かがあった時は連絡帳や送迎時に口頭で伝えるようにしている。コミュニケーションを大切にしていきたい。
- <9> 転んだ事を伝えられたのが3日後の事があった。帰宅時に忘れ物があり届けてもらった事があった。引継ぎをしっかりと欲したい。  
→転倒について職員間では伝達し気を付けて見ていたが、ご家族に伝えるのが遅くなったのはこちらのミスであり、今後このような事のないよう徹底していきたい。
- <12> 地域の私達が見えていない部分なので地域からは何とも言いようがない。  
事業所内の事なので、利用されている方の意見が大切。(寺尾)
- <27> 終末期ケアにおいては、情報共有のシートを使い、医師、看護師、家族、ケアマネ、介護職で随時情報し皆でケアを進めるようにしている。
- ・質問：公表とはどうするのか。  
→ホームページで公表する。地域包括支援センターに置いてもらうなど。
  - ・今回は時間がなく項目27で終了する。次回の運営推進会議で続きを行う。

## 1 今後の予定



ありがとうございました(\*^\_^\*)